

平成 24 年度 経営協議会の学外委員からの意見等に対する対応状況

	経営協議会の学外委員からの意見	意見に対する対応
第二回 (平成 24 年 6 月 19 日)	<p>○アンブレラ方式に組み込まれるのではなく、独自性を発揮し、単独の大学として頑張ってもらいたい。</p> <p>○日本の将来のためには、女性の能力を活用することが不可欠であるので、お茶の水女子大学の存在は大きい。</p>	<p>本学は、独自の存在として存続させていくべきであり、共学の大学の女子教育とは異なった国立女子大学としての役割と女性の教育があると考えている。そのため、若手の教員を中心に、本学の将来構想について、「将来構想を考える会」を設置して検討することとした。</p>
	<p>○社会の期待に応える教育改革には、社会の変革が不可欠であることを発信してもらいたい。</p>	<p>本学が 3E（教育・雇用・起業）のそれぞれの分野への女性の進出のモデルケースとなるべきであり、キャリア支援センターを中心に教育を行い、リーダーシップ養成教育研究センターにおける取組み等を通じて発信している。その結果、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業等が、ワーク・ライフ・バランスのさらなる推進に役立てることができるとして、内閣府が募集する「働き方を変えて、世界を変える（第 1 回）『カエルの星』」に認定された。</p>
第三回 (平成 24 年 10 月 16 日)	<p>○将来的には、クラシックな現在の学部構成を見直し、社会人として女性が活躍できるための学部の在り方を検討することが必要。</p>	<p>複数プログラム選択履修制度は、学部の枠を越えた教育制度であり、まずはこれを有効に機能させることが重要であるが、学部を再編することも含め学部の在り方について検討することとした。</p>

<p>第四回 (平成25年1月22日)</p>	<p>○「平成25年度学内予算編成方針」の作成について</p>	<p>平成25年度学内予算編成方針について、「収入増の取組み」についても記載することとした。また、「収入増の取組み」の項に記載の外部資金について、政府の補助金についても含まれることを明示することとした。</p>
	<p>○「生涯教育」の取組みを充実してもらいたい。 ○「マネジメント」を学ぶ機会を提供していただきたい。 ○社会人教育を充実させ、強化していくことが重要である。</p>	<p>国立の女子大学として引き続き存在するよう戦略を立てたい。 国際的に活躍できる女性を育てることを使命としており、男女共同参画社会を牽引するという役割が重要である。 生涯に涉って教育あるいは研究活動に従事することが出来る、大学院教育を中心とした生涯教育システムを構築する予定である。</p>
	<p>○「リーダーシップ」という社会の概念そのものについて研究してもらいたい。 ○多様な社会構造の中では、いろいろなリーダーシップの取り方があり、固定的な「リーダーシップ」はあり得ないと考えている。 ○女子教育の中でリーダーシップを養っていただき、それを社会の中で活用していただきたい。 ○多様性が尊重される社会構造、組織の中、多様なリーダーシップの在り方についても研究していただきたい。</p>	<p>平成24年度に採択された「グローバル人材育成推進事業」の活動を通じて、本学としてのリーダーシップ養成を実践することとした。 また、リーダーという概念の定義が多様になるということ認識した上で、リーダーの概念を定義することも研究の対象として、リーダーシップ養成教育研究センターにおいて、本学が発信するリーダー教育を構築したいと考えている。</p>

<p>(平成25年3月19日) 第六回</p>	<p>○入試結果を受けた定員の見直し等の検討について</p>	<p>大学改革の検討の際に、定員の見直しにとどまらず、学科等の再編も視野に入れることとしている。</p>
	<p>○志願者獲得のための入試広報の拡充について</p>	<p>志願者獲得のため、入試広報の在り方を検討する「入試広報プロジェクトチーム」を設置して検討を開始した。同プロジェクトチームでの検討結果を受け、高等学校の教員向けオープンキャンパスの開催、桜蔭会（同窓会）支部への働きかけを行うこととした。</p>